

2017/4/29

(日々雑感 94)



何で失敗するのか？なんで上手くいかないのか？

株式投資でも、事業でも、商品開発やマーケティングでも、恋愛でも、そのほか諸々諸事万端。

おそらくそれは、自分の都合で物事を見てしまうからではないでしょうか。手前味噌、我田引水。平たく言うと「欲」で目が曇るから。見る物がゆがんでしまうからでは。

既に世の中に何年か生きていると、そうそう自分の都合、思惑、思いの通りには行かないことくらい薄々は感じているはずなのに、こと、自分の、特に関心、興味、価値観の3K分野になると、いとも簡単に、それこそ物の見事に「とち狂って」しまう現実。

例えば証券マンが、お客さんの株運用だと良い成績が出せるのに、自分で運用するとなると大損こいたりしてしまうと言うようなことです。所謂「欲目」です。

仮にある事実があるとします。それ自体は無色透明無味無臭です。単にある事実が「ころんと」あるだけ。そこにある人の都合なり思惑なり欲目なりが入ります。例えば今までの損失額を一挙に取り戻すには、騰落倍率が2倍より3倍のなんちゃら会社の方が有利だと言うようなことです。そこでまず、判断の過ちを犯します。そうしてそのような手前勝手な判断の過ちを積み重ねて行くうちに、事実から生起する結果と、思惑、都合、欲目で濁った選択から生まれた期待結果の間にとんでもない差が生じて、結果、大損になるわけです。

もう一つは「自分の見ている世界」の主役を「自分」にしてしまうことです。ざっくり簡単に言うと自分を自分が見ている世界の「神さま」にしてしまうことです。もし、神さまだというのが大げさなら、自分を映画の中のヒロイン、ヒーローにしてしまうことなのです。主演女優、主演男優は、撮影の合間に周りからちやほやされます。わがままもきいてもらえます。気に入らない付き人だと、飛ばしたりすることさえ出来ます。完全な「我が世の春」状態です。これが失敗の元になります。そうしていつしか凋落していき、最後は見向きもされなくなる。

この過ちを犯さないためには、映画の主役、ヒロイン、ヒーローであっても、自分を映画の中の「主役」という一つの「駒」「役割」、それこそ「単なる一つの役柄」としてみるこ

とが肝要だと思っています。つまり映画という作品の全体を動かしている「監督目線」で見ると言うことです。自分を一番上に置かずに、その上に何かを置くことです。「自分が神さまになる」のではなく「自分の上に神さまを置く」ことなのです。「作品という神さま」の「主役という駒」になる事なのです。

「全体の駒になる」というと、それは全体主義的思考法で危険だという忠告を以前にいただきました。有り難いご指摘です。

しかし、そのご指摘は少し違うような気がします。

全体主義というのは、全体の目的の駒である個々人が全部同じ方向を見る一種の金太郎飴状態のことを指すのですが、この場合の駒というのは、その個々の駒が見ている方向は点でばらばらなのですが「自分はその大きな流れの中で、あるパート、ある部分、ある役割を担って動き、働いている」のだという自分の立ち位置の自己認識、自己規定のことを言っているに過ぎないからです。

良い作品を創るには「俺は主役なんだぜ」という思い上がりを捨てて「俺は単に作品の中の主役という役割をしているすぎないんだ」という認識が何より大切なのです。それが結果、自分を活かす最大の近道になるのだと思っております。急がば回れの喩えそのものなのではないでしょうか。

明治以降、西洋の考え方が導入された夏目漱石の時代に始まって、直近では戦後「個性を大切に」の名のもと、自分を一番上に置く風潮、考え方。その実ひとの苦労や苦しみを全く顧みなくなってしまった風潮を見る度に「本当にこれは、正しい姿なのだろうか」「それまでの時代より僕らは前に進んでいるのだろうか」と思うことが最近多々あるからなのです。

思えばそれは、人生の終盤に差し掛かった僕の嘆息（ためいき）かもしれません。

しかし、僕のそれは単に歴史の逆行、アナクロニズムではなく、歴史の点検の必要性を感じての事ではないかと思っております。

自分の例を引いてみれば、大病で入院をせざるを得なくなった1年前、帰ってこられないかもしれないという思いの中で、自分の過去、それまでの一生を振り返ってみる機会を得た事で、実に多くの発見があった経験からそう思った次第なのです。

それは、整理整頓が大好きな僕の「ちゃんとした秩序」「整った価値体系」への憧憬（あこがれ）なのかもしれません。なぜならそれは「僕にとって」居心地が良いからです。僕の個人的な趣味なのです。押しつける気など毛頭ありません。

ですが、それが個人的な趣味だとことわった上で、敢えて最後に言わせていただければなら「今一度、自分にとって本当に心地よいことは何なのかを、それまで歩んでた道を振り返って点検してみたいはいかがでしょうか。必ず未来の「本番」に向けて、とても役に立つと何かが見つかると思うのですが」と言わせていただきたいのですが。

以上、最後になるかもしれない「申し送り」について、どうおもわれますでしょうか？みなさんは。